

お外に帰してあげよう

2階にある保育室。その廊下にかまきりの赤ちゃんを発見しました。そっと手に乗せ、保育室にいる友達に知らせると、あっちからもこっちからも友達が集まってきましたよ～

ぎゅっとしたらだめだよ。

わたしもさわりたい

とまっちゃった。

いっかいも
さわってないで

あしながっちゃ
ってるのかなあ

じゅんばんにしよう

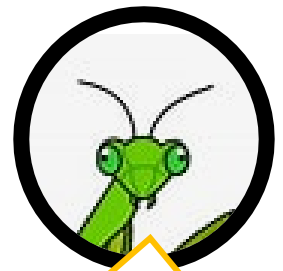
あしがいっこない！

こうやってしたらいい
(掴むのではなく、カ
マキリの進行方向に
指を置いてカマキリ
から乗る作戦。)

いっこあしがいないか
らおそいんかなあ。



次の活動が始まる時間になると、「お外に帰してあげよう」「ここかまきりのごはんないから。」などと子ども達同士で話し、園庭に放していました。今まで触れ合ってきたダンゴムシやテントウムシの経験があったからこその行動だと感じました。「命」の大切さ。折に触れ引き続き伝えていきたいです。



かお、さんかく
みたい。

かみのけでてる～！
めっちゃちよっと。

ばいきんまんみたいやな。

きゃはは～！



うみぐみ

保育者の仲立ちがなくても、友達の言葉に気付き、そこに視線を向けたり、自分の思いを言葉にして出したりするようになってきています。子ども達自身の言葉を大切に毎日を過ごしています。